私が考えるGenespelistとは

鈴木　聡先生　市立旭川病院 総合内科

1) こんなところで働いています（⌒▽⌒）

市中病院で総合内科医として勤務しつつ初期研修医の教育，総合診療専門研修プログラムの専攻医の教育などを行っています。

2) 私のサブスペはこれだ！　消化器内科

2012年までは消化器内科として主に胆膵疾患を中心に診療していました。2013年以降は総合内科に転向して領域別でない病院総合診療医として勤務しています。

3) 自分がGenespelistであると感じるときは？

消化器内科というspecialistとして勤務していた頃，後に総合診療の道に進むことになったとある研修医が，「専門領域以外のことも考えているので，模範的な医師像として鈴木先生を目標にしていた」と言っていたのを伝え聞いた時，自分はgenespelistとしての下地があったと感じました。現在は主にgeneralistの立場で勤務していますが，biopsychosocial modelに基づく総合診療的なアプローチも取り入れることにより，消化器内科医時代よりもより消化器症状を訴える症例に適切な対応ができるようになったと実感しています。消化器領域に限ったことではありませんが，病院総合診療医には様々な専門領域の専門的知識も少なからず求められます。どのような領域の病態であれ，その問題を解決するために新たな知識の獲得に貪欲になり，その経験を楽しいと感じられる時が，genespelistを最も感じる瞬間だと思います。

4) Genespelistを勧める理由は？

自分の専門領域であっても答えの見つからない問題に出会うことは少なくないでしょう。しかし自分の専門領域外の問題で対処に困るのは，単に知識不足が原因であることがほとんどです。80:20の法則に言われるように，問題の8割は数ある対処法のうち2割によって対処可能なことが多く，最低限の知識を身につけるだけでも自分の診療範囲が格段に広がるため非常に効率的です。何年目になっても専門領域以外の勉強をしようという意気込みさえあれば，genespelistへの道を踏み出すのは容易です。それが指導的立場にある先生方であれば，若手医師も感化されるため，全体として診療効率が上がることは間違いありません。今後の社会では診療効率が高いマルチタスクが求められるようになるため，多くの先生方にgenespelistとして活躍していただきたいです。

5) 日本の医療を支えるのにGenespelistは必要？

Genespelistはspecialtyを保持しつつマルチタスクがこなせるのが強みです。超高齢社会では，医療を必要とする人々は複数の問題を抱えていることが多く，かつ高度な専門性を求められることも多いため，マルチタスクをこなせるgenespelistが必要になってきます。複数診療科に通院する高齢者が入院する際には，「何科が主治医？」問題も発生し，時に診療科間で軋轢を生みます。Genespelistならこのような問題は一挙に解決でき，患者にとっても医療者にとっても効率的な医療現場を創出することにつながり，これからの日本の医療を支えていく基盤になることは間違いありません。

6) あなたにとってGenespelistって？

維持しつつ，かつ追い求めるものです。現在は内視鏡手技は治療手技から離れてスクリーニングのみに徹しているため，genespelistとしてしっくりこない点ではありますが，消化器病専門医としてのノウハウを維持しています。一方で病院総合診療医としてのアイデンティティを保つためには，純粋なプライマリ・ケアに徹しているだけでは不十分で，各領域の専門医と同じ土俵で渡り合える知識が必要です。必要とあらば専門領域に手を伸ばす姿勢を維持することが，今後の自分にとってのgenespelistとしての在り方だと思います。

7) 最後にGenespelist推進メンバーとして一言

Specialtyを保持しながらgeneral mindも持つのは負担が大きいと感じるかもしれません。ですがgenespelistのあり方も様々です。自分の専門領域以外にも手を出してみようとか，プライマリ・ケアの立場からちょっと深みに足を踏み入れてみようという気持ちを持っていれば，それは立派なgenespelistの卵だと言えます。それに臨床をやっていれば，いろいろ欲が出てきたり，必要性に駆られたりする時が必ずあります。それを実行に移した瞬間から，あなたは立派なgenespelistです。日本の将来の医療を担うgenespelistへの道を，一緒に踏み出しませんか？